ONKYO

GX-77M

POWERED SPEAKER SYSTEM

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

特長

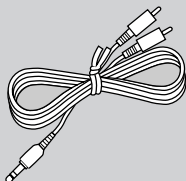
カタログ及び包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法や仕様は同じです。

- ■ 本格的な音楽製作シーンにも十分応えられる24bit/192kHz対応の光デジタル入力端子
- ■ バランスの取れた一体感のある自然な音場再生が可能な、新開発TAS(Time Alignment System)搭載、同軸2ウェイスピーカーユニット
- ■ AERO ACOUSTIC DRIVE採用のダブルスリットダクト構造で量感とスピード感あふれる低域再生
- ■ A-OMF振動板採用10cmウーファー
- ■ 100kHzまで再生できるツィーターで伸びのある高域再生
- ■ ノイズを低減するSラインエッジ
- ■ ハイクォリティ15W＋15Wアンプ搭載
- ■ アナログミキシングボリューム
- ■ バス、トレブル調節ツマミ
- ■ 硬度が高く響きの良いMDF木製キャビネット
- ■ デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する新回路、「VLSC(Vector Linear Shaping Circuitry)」を搭載し、飛躍的な音質向上を実現

● WAVIO®の名称、ロゴはオンキヨー（株）の登録商標です。　● OMF®の名称、ロゴはオンキヨー（株）の登録商標です。
● VLSCの名称、ロゴはオンキヨー（株）の商標です。

付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表わしています。

● Rチャンネル ⇔ Lチャンネル接続コード(B)(1)
（モノラルピンプラグ⇔スピーカーコード）

● アナログ入力用接続コード(A)(1)
〔RCAステレオピンプラグ⇔
ステレオミニプラグ変換コード(1.5m)〕

●スペーサー(8)

● 取扱説明書(本書1)
● 保証書(1)
● オンキヨーご相談窓口・
修理窓口のご案内(1)

防磁設計について

一般にパソコンやカラーテレビに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどのデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、パソコンモニターなどとの近接使用が可能となっています。ただし、設置の仕方によっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度パソコンモニターなどの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。パソコンモニターなどの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合にはスピーカーをパソコンモニターなどから少しはなしてご使用ください。また近くに磁石など磁気を発生するものが置かれていますと、本機との相互作用によりパソコンモニターなどに色むらが発生する場合がありますのでご注意ください。

お手入れについて

表面は、時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは中性洗剤を薄めた液に、柔らかい布を浸し、固くしぼって汚れをふきとったあと乾いた布で仕上げをしてください。
固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶたは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

- 本機を押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

- 本機の内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

⚠注意

■ 設置上の注意

- ぐらついた台の上や傾いた所、厚手のじゅうたんの上など不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、接続コード、スピーカーコードをはずしてから行ってください。落下・転倒の危険やコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- スピーカーコードの配線に注意してください。スピーカーコードを足に引っかけると転倒したり、スピーカーが倒れて危険です。特にスピーカースタンドを使用したとき、高いところに置いたときなど、特にご注意ください。
- 壁はその材質、また、桟などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては、十分にご注意ください。（専門業者にご相談ください。）

■ 次のような場所に置かない

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。

■ 使用上の注意

- 音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。スピーカーの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。
- 長時間音がひずんだ状態で使わないでください。スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、接続コードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセント
から抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

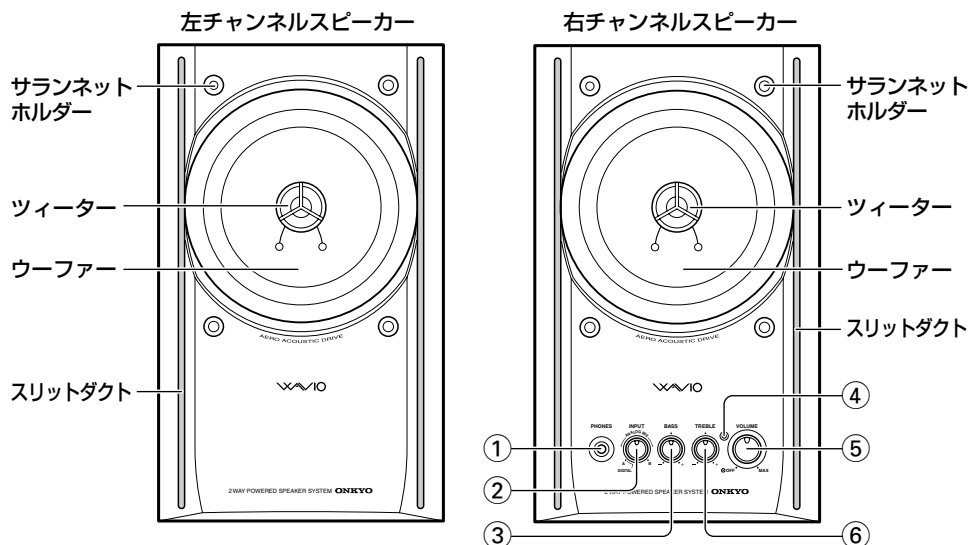
■点検について

電源プラグをコンセント
から抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。

各部の名前と主な働き

■前面パネル

① ヘッドホン端子（PHONES（フォーンズ））
ステレオミニプラグのヘッドホンやイヤホンを接続します。接続するとスピーカーからの音は聞こえなくなります。

② 入力切換ツマミ（INPUT（インプット））
アナログ入力とデジタル入力の切り換えを行います。アナログ入力時は背面のANALOG IN A端子に接続した機器とANALOG IN B端子に接続した機器の音声をミックスするときに調整します。

③ バスツマミ（BASS（バス））
低音部の再生レベルを調整します。
ツマミを右に回すと、再生レベルが大きくなり、左に回すと小さくなります。
中央の位置がフラットです。

④ パワーインジケーター（POWER（パワー））
背面の主電源スイッチを「ON」にすると点灯します。

⑤ スタンバイスイッチ/ボリュームツマミ（STANDBY（スタンバイ）/VOLUME（ボリューム））
スタンバイスイッチとボリューム（音量調整）を兼用しています。ツマミを右に回すと電源が入り、徐々に音量レベルが大きくなります。ツマミを左いっぱい（OFFの位置）に戻すとスタンバイ状態になります。

ご注意

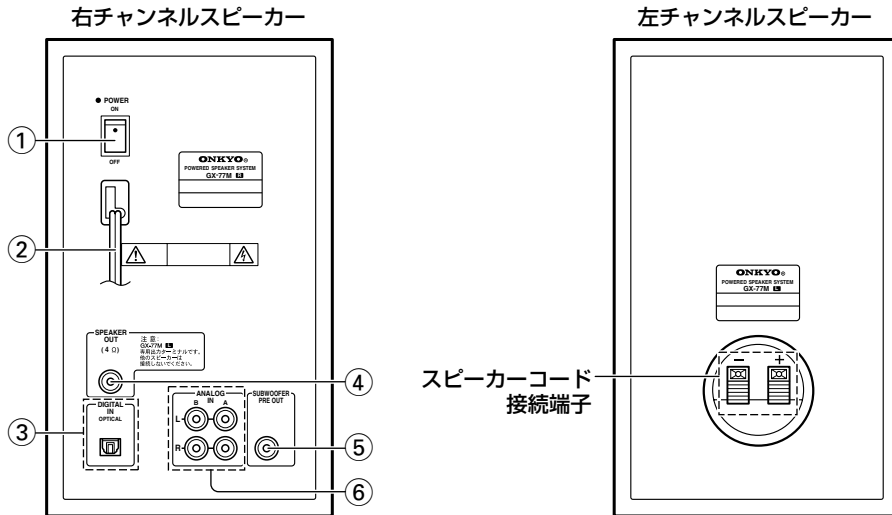
スタンバイ状態でも、背面パネルの主電源スイッチがONになっていると回路には電流が流れています。そのため、背面のパネル部が熱くなりますが異常ではありません。

⑥ トレブルツマミ（TREBLE（トレブル））
高音部の再生レベルを調整します。
ツマミを右に回すと、再生レベルが大きくなり、左に回すと小さくなります。
中央の位置がフラットです。

スピーカーユニット（ウーファー、ツィーター）部には触れないでください。
特に本機のツィーターの振動板には非常にデリケートな材料が使われています。物があたったり、手で触れると破損する恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

■背面パネル

右チャンネルスピーカー

左チャンネルスピーカー

① 主電源スイッチ（POWER）

内蔵アンプの電源スイッチです。「ON」にすると、前面のパワーインジケーターが赤く点灯します。（パワーインジケーターは前面のスタンバイスイッチが「OFF」以外の場合は、緑で点灯します。）
長期間本機を使用しない場合には、この主電源スイッチを「OFF」にしてください。

② 電源コード

③ 光デジタル入力端子（DIGITAL IN OPTICAL）

光デジタル信号の入力用接続端子です。オーディオ用光デジタルケーブルを使用してください。（本機には付属していません）

ご注意

本機はDVDの5.1ch信号には、対応していません。

④ 左チャンネル用スピーカー出力端子（SPEAKER OUT）

左チャンネルのスピーカーと接続するための端子です。必ず付属のRチャンネル⇔Lチャンネル接続コード（B）を使用してください。

⑤ サブウーファー出力端子（SUBWOOFER PREOUT）

本機とお手持ちのアンプ内蔵サブウーファーとを接続するための端子です。

⑥ アナログ信号入力端子（ANALOG IN A/B）

アナログ信号の入力用接続端子です。付属のアナログ入力用接続コード（A）を使用してください。

左右のスピーカーを接続する

付属のRチャンネル⇔Lチャンネル接続コード（B）で左チャンネルスピーカーと右チャンネルスピーカーを接続します。

1.ビニールカバーをはずし、コード先端のしん線部をよじります。

2.スピーカー端子のレバーを押しながら、コードの先端を奥までしっかりと差し込みます。
黒い線を－側端子、赤い線を＋側端子に接続します。

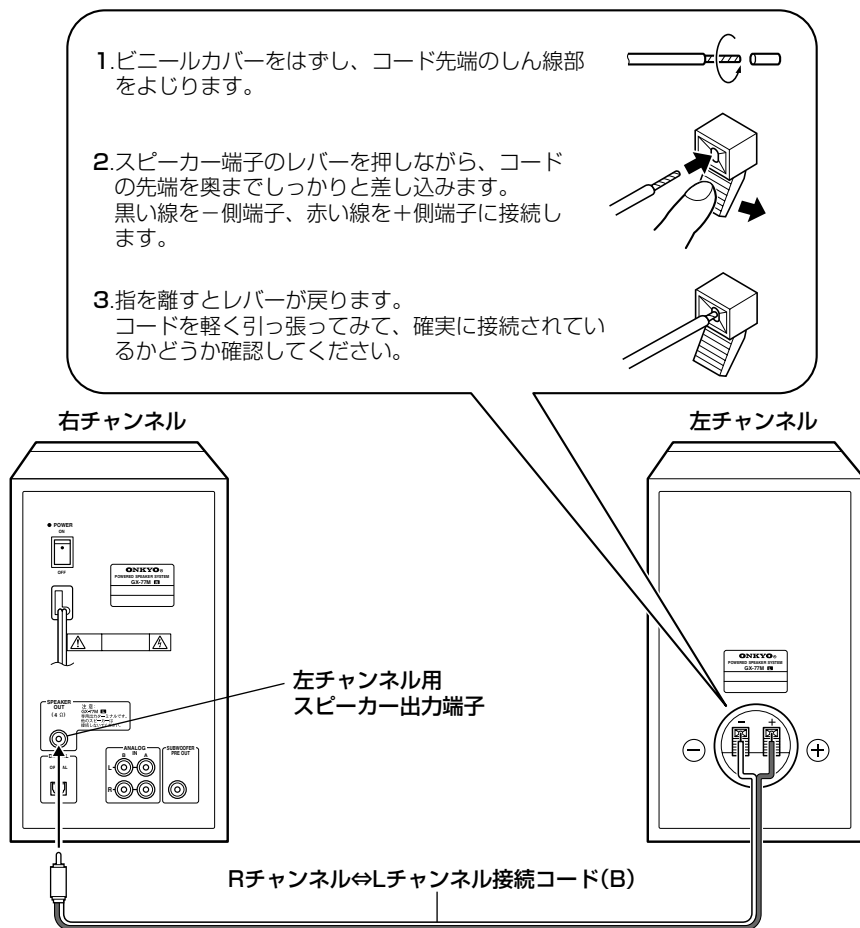
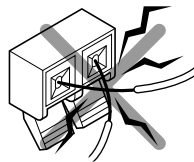
3.指を離すとレバーが戻ります。
コードを軽く引っ張ってみて、確実に接続されているかどうか確認してください。

右チャンネル

左チャンネル

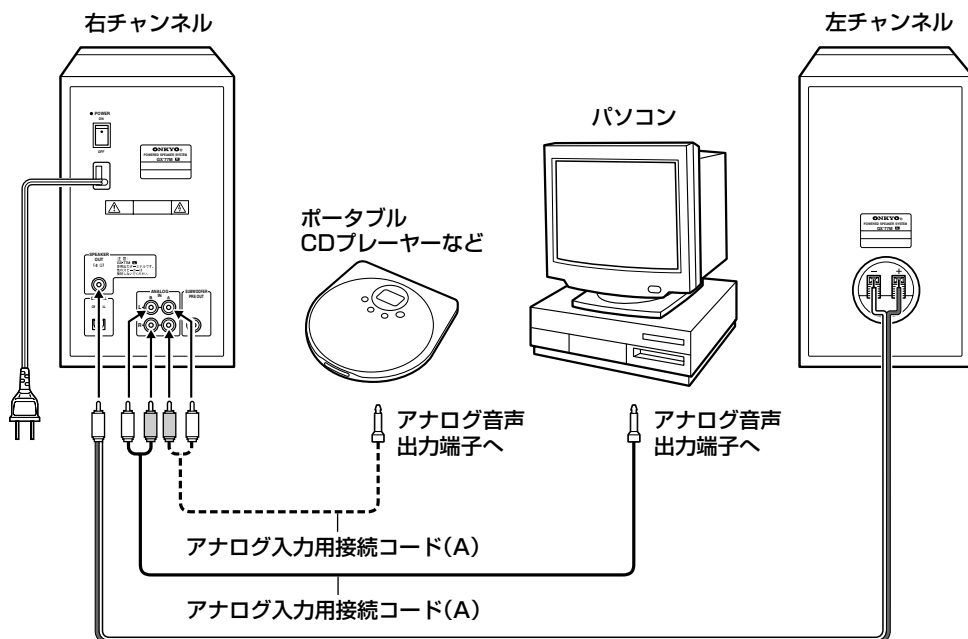
左チャンネル用
スピーカー出力端子

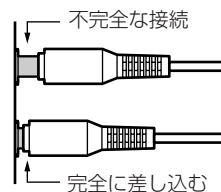
Rチャンネル⇔Lチャンネル接続コード（B）

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 電源を入れる前には、必ずボリュームツマミを左に回して「OFF」の位置にしておいてください。
また、本機に接続する他の機器の電源も入れないでください。
- 「左チャンネル用スピーカー出力端子」は左チャンネルスピーカーを接続する専用の端子です。他のスピーカーやアンプは接続しないでください。
- スピーカーコードの接続は、しん線部が隣の端子や金属部に触れていないかよく確認してください。接触したまま動作させると右チャンネルスピーカー内蔵アンプの故障の原因となります。

外部機器との接続のしかた

本機には光デジタル入力端子と2つのアナログ入力端子があり、最大で3種類の音声機器やPC（コンピューター）機器を接続することができます。

■ アナログ入力を接続する場合

オーディオ機器、コンピューター本体またはサウンドボードのアナログ音声出力端子と本機のANALOG IN AまたはBを付属のアナログ入力用接続コード（A)で接続します。(R端子には赤いプラグを、L端子には白いプラグを差し込んでください）

ご注意

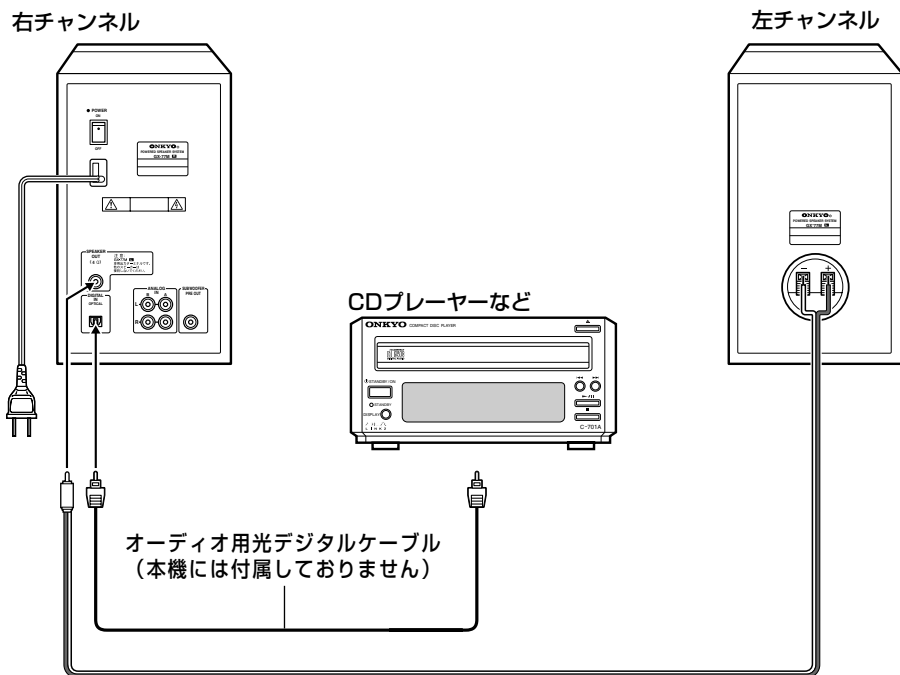
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全だと、雑音や動作不良の原因になります。
- 付属のアナログ入力用接続コード（A)、Rチャンネル⇔Lチャンネル接続コード（B)、電源コードは、いっしょに束ねないでください。音質が悪くなることがあります。
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。

外部機器との接続のしかた

■ デジタル入力を接続する場合

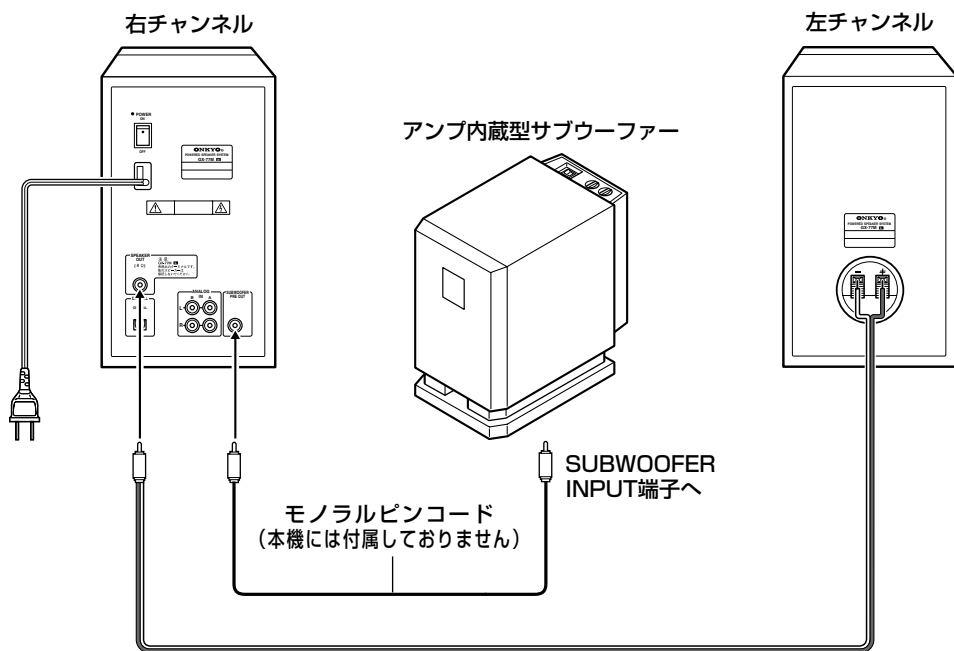
オーディオ機器、コンピューター本体またはサウンドボードのデジタル音声出力端子と本機の光デジタル入力端子を接続します。

接続する機器の光デジタル出力端子を本機のDIGITAL IN OPTICAL端子に、オーディオ用光デジタルケーブルを使って接続します。（オーディオ用光デジタルケーブルは本機に付属していません。）

- デジタル信号は、左右の音声信号が1本の接続コードで通信されます。

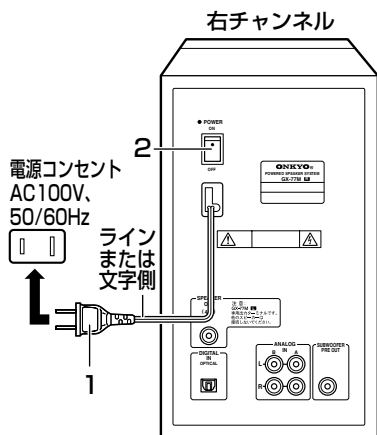
ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 本機のDIGITAL IN OPTICAL端子はシャッタータイプですので、フタをそのまま奥に倒すようにしてオーディオ用光デジタルケーブルを差し込んでください。

サブウーファーとの接続のしかた

本機のサブウーファー出力端子（SUBWOOFER PRE OUT）の出力は、左右の信号をミックスした信号で高域成分を含んでいます。
接続するサブウーファーは、ハイカットフィルターおよび、ボリューム内蔵のものを使用してください。また、サブウーファーは、メーカー、機種により入力感度が異なります。 ご使用になるサブウーファーによりレベルを調整し、お楽しみください。

ご注意

- サブウーファー出力端子（SUBWOOFER PRE OUT）と、サブウーファーの入力端子をモノラルピンコードで接続してください。（本機には付属していません。）
- 電源を入れる前に、サブウーファーのボリュームを必ず最小の位置にしておいてください。
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。

電源を入れる

すべての接続が完了してから、右チャンネルスピーカーの電源プラグをコンセントに接続してください。

1.電源コードをつなぐ

電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。

！ヒント

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コードは極性の管理がされています。

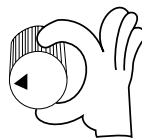
電源コードの片側にラインまたは文字の入っている側を家庭用電源コンセントの溝が長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらに接続してもかまいません。

2.電源を入れる

背面パネルの主電源スイッチを「ON」側にしてください。前面のパワーインジケーターが赤色に点灯します。

- 前面のスタンバイスイッチ/ボリュームツマミ（STANDBY/VOLUME）を右に回すと電源が入り、パワーインジケーターが緑色に点灯します。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。
特に静かな夜間には音量を下げてききましょう。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

入力を切り換える

背面の各入力端子に接続された機器を選択します。

●アナログ/デジタルの切り換え

入力切換ツマミ（INPUT）で、アナログ機器/デジタル機器の切り換えを行います。

●A-Bの切り換え

入力切換ツマミ（INPUT）で背面のANALOG IN A端子に接続した機器とANALOG IN B端子に接続した機器を選びます。A点とB点の間にあるときは、Aに接続した機器とBに接続した機器の音声をミックスすることができます。お好みでバランスを調整してください。

DIGITAL IN OPTICAL端子に接続した機器を選ぶ

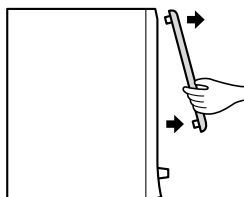
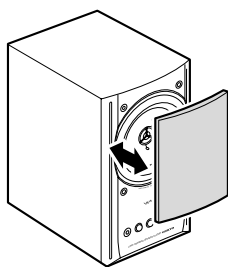
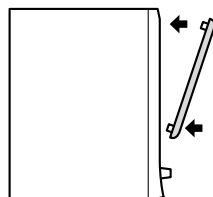
ANALOG IN A端子に接続した機器を選ぶ

ANALOG IN B端子に接続した機器を選ぶ

Aに接続した機器とBに接続した機器の音声をミックスさせる

サランネットの着脱

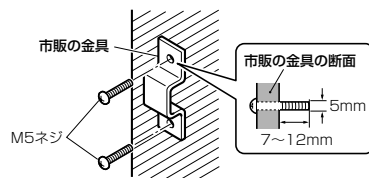
本機は前面のサランネットを取外すことができます。サランネットを付けたり、外したりするときは、次のように行ってください。

1. サランネットの下側を両手で持ち、手前に軽く引っ張り、サランネットの下側を外します。
2. 同じようにサランネットの上側を手前に引っ張ると、サランネットは本体から外れます。
3. 取り付けるときは、サランネットの四隅にある突起部を本体のサランネットホルダーに合わせて押し込みます。

取りはずし

取り付け

設置について

- 本機のキャビネットは木工製品ですので、温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房器具の近く、湿気の多いところは避けてください。
- 本機は立てた状態で使用されるように設計されておりますので、寝かせたり、傾けたりしないでください。
- 本機は通常のご使用には十分耐えられますが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故の恐れがありますので、ご注意ください。
  ① オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
  ② ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音
  （抜き差し時は必ず本機の電源を切ってから行ってください。）
  ③ マイク使用時のハウリング
- スピーカーと設置場所との間は面接触より点接触のほうが一般的によい結果が得られます。またガタツキがあると質の良い低音が得られなくなりますので付属のスペーサーやコインのような金属板を使ってガタツキがなくなるようにしてください。
- 本機の背面部はご使用の状況により、高温になることがあります。カーテンなどの可燃物への接触や、火傷にご注意ください。

■ 市販のスタンドや金具を使って固定するには

市販のスタンドや金具を使用できるように、底面にピッチ60mmでM5用ネジ穴を2個設けています。
取り付け方法については、ご使用になるスタンドや金具の説明書をご覧ください。
スタンドや金具をご使用になるときは、スタンドや金具の厚みを考慮して有効ネジ長が7～12mmのものをご使用ください。

困ったときは

下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	● 電源プラグの差し込みが不完全。	● 電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。(12ページ)
音が出ない。	● ボリュームツマミが最小になっている。 ● アナログ入力用接続コード(A)やRチャンネル⇔Lチャンネル接続コード(B)の接続が不完全。 ● 入力切換ツマミの位置が不適切。	● 適当な音量にしてください。(12ページ) ● アナログ入力用接続コード(A)やRチャンネル⇔Lチャンネル接続コード(B)を正しく接続してください。(8～11ページ) ● アナログ/デジタルA/Bの切り換えを行ってください。(12ページ)
音が小さい。	● ボリュームツマミの位置が不適切。	● 正しい位置にあわせてください。(12ページ)
片方のスピーカーからしか音が出ない。	● 接続が不完全。	● アナログ入力用接続コード(A)を正しく接続してください。(9～11ページ) ● Rチャンネル⇔Lチャンネル接続コード(B)を正しく接続してください。(8ページ)
ブーンというハム音が入る。	●テレビ等からの誘導雑音。 ● アナログ入力端子の接続が不完全。	● 雑音源より離してください。 ● アナログ入力用接続コード(A)を正しく接続してください。

ご注意

- 低域や高域を極端にブースト（増強）したり、低域や高域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号音以外に異常な音を発生する場合があります。これは、故障ではありませんが、このような状態で長時間ご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので、音量を下げてご使用ください。
- 本機の光デジタル入力端子はステレオ信号のみに対応しています。DVDの5.1ch信号などは再生しないでください。本機のアンプやスピーカーユニットが故障する原因となります。

主な仕様

形式：
アンプ内蔵2ウェイ·バスレフ型(右チャンネル)
2ウェイ・バスレフ型（左チャンネル）

定格周波数範囲　40～100kHz

クロスオーバー周波数　7kHz

最大出力　15W+15W（4Ω）

入力インピーダンス　30kΩ

使用スピーカー
ウーファー：10cm A-OMFコーン
ツィーター：2cmバランスドーム

デジタルINサンプリング周波数
32、44.1、48、96、192kHz/24bit対応

電源　100V（50/60Hz）

消費電力　40W

入出力端子
デジタル入力×1（光）
アナログ入力×2（RCAステレオ/金メッキ）
サブウーファー出力×1（RCAモノ）
ヘッドホン出力端子×1
（φ3.5mm/ステレオ/金メッキ）

外形寸法：
Rch 137（W）×229（H）×196（D）
Lch 137（W）×229（H）×191（D）

質量： Rch　3.6kg
Lch　2.5kg

その他： 防磁設計（JEITA)
サランネット脱着可

仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。
修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

▶ お 名 前
▶ お 電 話 番 号
▶ ご 住 所
▶ 製 品 名　GX-77M
▶ で き る だ け 詳 し い 故 障 状 況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　(　　)

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/
http://www.jp.onkyo.com/wavio/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル☎0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または☎072(831)8111（携帯電話、PHSから）

G0408-3

SN 29343621B